

第 1 回 栗東市農業振興基本計画等策定委員会 議事要旨

日 時	令和 2 年 9 月 2 5 日（金） 15:00～17:00	
場 所	栗東市役所危機管理センター 3 階 大研修室	
出席者	【委員】	香川文庸委員（委員長）、大平倫史委員（副委員長）、武村秀夫委員、谷口敏彦委員、中井栄夫委員、猪飼正道委員、竹村明委員、三浦喜彦委員、小林義康委員、中井あけみ委員、林優里委員
	【オブザーバー】	滋賀県大津・南部農業農村振興事務所
	【事務局】	栗東市環境経済部農林課 株式会社パスコ
欠席者	【委員】	田中利志次委員
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. あいさつ 3. 委員委嘱 4. 委員自己紹介 5. 委員会設置要綱について 6. 委員長・副委員長の選出について 7. 栗東市農業振興基本計画の素案の作成について 8. 確認事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本委員会の公開（非公開）について (2) 本委員会の傍聴取扱規定（案）について 9. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 栗東市農業振興基本計画の策定 (2) 栗東市の概況について (3) 市民意向調査について 10. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次回の会議日程について (2) 連絡事項 11. 閉会 	

1. 開会

2. あいさつ

- ・市長によるあいさつを行った。

3. 委員委嘱

- ・市長より委員の委嘱を行った。

4. 委員自己紹介

- ・各委員及び事務局より自己紹介を行った。
- ・事務局より欠席者の報告を行った。

5. 委員会設置要綱について

- ・事務局より要綱の説明を行った。

6. 委員長・副委員長の選出について

- ・委員からの推薦により香川委員を委員長に選出した。
- ・香川委員長の指名により大平委員を副委員長に選出した。

7. 栗東市農業振興基本計画の素案の作成について

- ・市長より香川委員長に諮問書を朗読のうえ、手渡しを行った。

8. 確認事項

- (1) 本委員会の公開（非公開）について
- (2) 本委員会の傍聴取扱規定（案）について
 - ・本委員会を、要領に基づき公開するものと決定した。

9. 協議事項

- (1) 栗東市農業振興基本計画の策定
- (2) 栗東市の概況について
- (3) 市民意向調査について
 - ・事務局より資料説明を行い、本計画並びに栗東市の農業・農地等に関する委員の意見を頂戴した。
 - ・以下、主な意見。

■栗東市の農業の特性、あり方について

委員：栗東市は都市近郊ということもあり、平均的に農地が極端に狭く、滋賀県の中でも東近江市や彦根市等に比べると農業をやり辛いという中で、現状従業員へ給料を支払うので精一杯。そのため、中間業者を省いて生産者から消費者へ直接販売や転作、加工品の生産でなんとか持ちこたえている現状。しかし、コロナの影響もあり、取引先の飲食店等の経営が傾き倒産しかけていることもある。また、農業・農産物で生計を立てるのは難しいが、かといって農業を無くすことはできない。

委員：中山間地と平地、市街地それぞれでやり方や思いが違う。「栗東の農業」ということでひとくくりにするのではなく、せめてこの3つの（地域）区分に区切り、それぞれに対して施策等を考えるべきではないか。

委員：野洲川水系と金勝川水系の2つの水系に分けて議論するべき。野洲川水系は水が豊富で野菜も米も作りやすいという一方で、金勝川水系は整備が十分でない地区もあり、今後どうしていくか考えるべきではないか。

委員長：区分に分けて議論すべきであるが、その場合、心苦しいが優先的に取捨選択する地域とそうでない地域が出てくる可能性がある。

委員：若い人がどんどん流出している中で、高齢者が大きな機械を使うのは危険である。秋田県男鹿半島では、谷川の水を使い鎌1つで収穫できるような、大きな農業機械を使わなくてもできるような農業を行っている。栗東市もそのような農業に取り組んでみてはどうか。

委員：京阪神にも近くインターチェンジもあり好条件な立地を活かし、観光農業などを推進するという考え方にシフトするべきではないか。

委員：栗東インターから見える棚田の景色や景観は市外や県外の人から評価されている。

委員長：栗東市は京都、大阪に近く兼業にも出やすいという地の利がある。コロナで在宅ワークが増えるなど働き方が変化する中で、農業をしながら仕事をするというライフスタイルで、農業をしてくれる若者が確保できるのではないか。

■中山間地域の農業について

委員：山間地の農地は、水はけが悪く野菜の栽培など向いていない。そのため新規就農者が来てくれても計画や今後の見通しが立て辛い。まずは、農業生産ができる農地への改良をメインに考えてもらいたい。

委員：現状、山間地では獣害が特にひどい。せっかく作っても、投入した種子代や材料費が赤字として出るだけでなく、やる気までなくなってしまう。獣害の対策をしていただきたい。

委員：条件の悪い中山間農地は、地域によって後継者のいるところは維持管理ができるが、後継者のいない所や高齢者ばかりの所は難しい。高齢者には危険な中山間農地も多く、米の消費が落ちる中で命を張ってまで農作業をする必要があるのか、とも考える。

委員：中山間農地について、国や栗東市はどのように考えているのか。農地を管理してくれるのか。

■後継者不足・担い手の確保について

委員：栗東市は他市町村に比べて、認定農業者が少ない。また、営農組合としても数年後には、約50戸になり、人材確保が難しい。高齢者雇用安定法で70歳まで働くようになると（定年退職された方の）人材確保がますます難しくなる。人材確保に向けた努力への支援をしていただきたい。

委員：集落同士が法人化すべきではないか。

委員：若い人、後継者が農業に取り組みたくなるような働きかけをする必要がある。

委員長：「人・農地プラン」で若い人が中山間地に住みついてくれた時に、過度な期待をかけてしまう場合がある。若い人に来てもらい生活させることと、過度に期待しすぎてしまうという微妙なさじ加減が難しいと感じる。

委員：新規就農者を呼び込みたいのなら、新規就農者が働きやすい地盤を作るために、区画整理、土壌改良を進めるべき。

■金銭面（補助金）、流通面の確保、支援について

委員：昔は、営農組合で作業をしていたので、組織に対する市の補助金があったが、現在では営農組合が無いので機械補助を受けられない。そのため、機械が故障した時の修理費などどうするのか。農業収益だけでは生活ができず、兼業で稼いだお金を使い機械など買わざるを得ない。このような悪循環が生じており、お金が回る仕組みを作っていく必要がある。また、野菜だと専業にならざるを得ず、そのためには作った野菜が確実に出荷できるような基盤づくりが必要となってくるのではないかと。

委員：野菜については、販路を考えないとわれわれが野菜を作っても売ることができない。生産者が作ったものが完全に売れるような販路の検討をしていただきたい。

■計画策定について

委員長：計画期間が令和4年～令和11年の8年間ということについて、もう少しロングでモノを見て、将来に向けて最初の8年という位置づけで計画を立てるなり、何らかの構想を練るなりするのが効果的なのではないかと。

委員：大学の農業サークルや若い人の中で農業が見直されているのに、実際に農業に携わる人が増えていないことに疑問を覚えた。栗東市で農業をする利点とは何か、農業をするためにあえて栗東市を選んでもらえるような計画にしてほしい。

委員：農業と衣食住や観光、教育等と連携調整し、横のつながりを持った計画にしていただきたい。

委員長：資源としての農地、景観、多面的な機能などから、農地を守らなければいけないという考えがある一方で、現実問題、経営している人の生活が苦しい事や担い手不足・労働力が限られている事、管理できる農地には限りがある事などという厳しい意見もある。それら環境や現状を把握したうえで、栗東農業の基本計画として一本化していく必要がある。

■意向調査について

委員長：市民アンケート4ページ目の問10は、やや誘導尋問的になっている。本来であれば、最初に必要があるかないかで丸をつけてもらい、その後理由についてお尋ねするのが合理的な質問項目の仕方だと考えるので、可能であれば再考頂きたい。

10. その他

(1) 次回の会議日程について

(2) 連絡事項

- ・事務局より次回の策定委員会の予定について説明を行った。
- ・委員よりハーベストイン走井の開催予定について紹介頂いた。

11. 閉会